

日本大学工学部  
**校友会報**  
第59号 平成8年3月1日

目次

ごあいさつ(工学部長・校友会長).....2  
平成7年度(第38回)通常総会報告.....3~4  
第15回母校を訪ねる会の報告.....5~7  
支部総会・同窓会・クラス会.....8~10  
若葉マークがんばり記(鈴木政昭).....11  
校友レポート(野元克彦).....12~14  
校友エッセイ(増田豊文・国府方一吉)15~16  
校友短信.....17~19  
震災報告(平上昭治・中平統士・橋本寛)・20~22  
計報.....23  
キャンパスミニメモ・事務局便り.....24



正門より 桜花爛漫の中に工学部本館を望む

# ごあいさつ



日本大学工学部長

## 國分 欽智

校友の皆様、景気の不況が長びいていますが、相変わらずお元気でご活躍のこととご推察申し上げます。

工学部では少子化社会に伴う大学大衆化の現実のもとで、個性化、特色化、高度化を目指して種々の大学改革を行ってきましたが、改めて昨年、工学部の教育理念と目標を慎重審議し、教授会で決定しました。(1)人間性豊かな人材の育成、(2)自主、創造の能力の養成、(3)地域社会と国際化社会に開かれた教育について、約700字に盛り込まれたその内容は50年の歴史にはぐくまれたみちのくの家族的、人間的ふれあいを重んじる工学部の伝統に深く根差すものです。これによって多様な志向と能力を持って進学してくる学生諸君に徹底した基礎教育と個別指導による適切な選択履修の教育を行い、彼等の創造力の啓発と人間性の確立に積極的に努力してゆく考えです。

また工学部では来年開設50周年を迎えるにあたり、かねてより専門業者にキャンパス再開設計画の策定を委託してきましたが、昨年11月その報告書が提出されました。既にご承知のように本館の北側は見違えるように整備されましたので、今後はその南側に本館を中心として専門グループごとに、本格的な5学科の独立棟を建設し、水と緑のきらめく豊かな自然環境のキャンパスを形成しようとする計画です。その内容は実にすばらしく、完成には長年月を要する壮大なスケールの理想的プランです。今後老朽化する施設の建て替えにはぜひこのプランで臨みたいと考えています。

このように、開設50周年を記念して今後の工学部の進路を明示する教育（ソフト）とキャンパス再開（ハード）の2大目標が確立されたことは極めて有意義です。来年10月挙行予定の開設50周年の記念式典で、このキャンパス再開計画筆頭の50周年記念館（多目的学生ホールなど）の建設を始めたいと思います。そのため、この4月から工学部教職員、在校生を始め校友の皆様方に記念募金をお願いすることにしていますので、その節は、どうぞよろしくお願い致します。

そして以上の諸施策を推進する新学部長として、現在学部次長の蓬田和夫教授が1月の理事会で承認されました。私に代わりまして、4月1日から発足する新執行部に大きな期待を寄せるとともに、その将来に皆様からの最大のご支援とご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。



日本大学工学部校友会会長

## 半沢 忠

新年を迎えられ、皆様にはご清祥のことと存じ上げ心からお慶び申し上げます。

昨年は図らずも第二次世界大戦終結50年目の年に当りましたが、阪神大震災では、都市の安全性について新しい手法を創り出さねばならなくなりました。またオウム真理教による一連の事件は、人々の心のありようを広くは社会的に、小さくは各個人に詰問することになりました。拝金主義で浮足立ったバブルの夢は破れ、金融機関には止るところを知らない不祥事の数々そして経営の破綻、狂気の嵐が去って、人々は正直で勤勉な本来の人心にかえった。沖縄の米軍基地問題は事象を正確に促え正義を実行すべきである政治の力不足を示しています。まさに「戦後50年の総決算」の年であったと思います。

さて、今年は12支の最初の干支の子年です、これは出発とか門出あるいは事物の始めを意味する縁起のよい干支であります。

平成9年、母校工学部は開設50周年を迎えます。これを機に、キャンパス再開設計画が策定されて、いよいよ21世紀へ向けての力強い胎動が始まりました。校友会でも、限りなく発展し変貌する母校を見失なわないように努力しなければなりません。

今、社会が大学に求めているのは、人が長い一生を生きる「考え方」と「経済力を得る能力」でありましょう。母校を訪ねる会ごとに、入学試験の実施についての説明を伺っていると、工学部が社会の動向に敏感に対処しているのがよくわかります。

申すまでもなく、私共卒業生は、社会の中で、多少なりとも有意義な仕事をし、尊敬もされ、慈しみを受けて日々過ごしていると思います。工学部の社会的評価の大部分は卒業生の何気ないこの日々の中にあるのです。

だから卒業する学生諸君に、彼の能力を十分に発揮できるような職場を案内あるいは紹介することは、校友会活動として、大変有意義であると考えます。

また地域の産業界に目を転じますと、徐々に進行する産業の空洞化に戦々恐々としているのが実情です。これを救えるのは、遠回りかも知れないが、地域の教育力ではないでしょうか。工学部・校友・行政が一体となって、夜間市民技術講座のようなものを開講されればよいと思っています。種々申し上げましたが、母校の発展と、校友各位のご健勝を祈念申し上げます。

## 平成7年度第38回通常総会報告

第38回校友会通常総会は、平成7年4月22日(土)午後2時30分より、日本大学郡山研修会館において開催された。

本年は、総会の時期が桜の開花時と相重なり、春爛漫の桜の満開と晴天に恵まれ、天もこの総会を祝福しているかの感があった。

総会は橋本事務局長(建10回)の司会によって、佐藤副会長(土3回)の開会の辞によって始まった。次いで半沢会長(化6回)より、次のような主旨の挨拶があった。「本年は、総会の時期が例年にもどって4月第3土曜日になった。特別な支障がない限り毎年4月第3土曜日に行きたい。昨年は猛暑のためか、多くの諸先輩や先生方が、亡くなられた。また本年1月の阪神・淡路大震災でも多くの校友が被災された。これらの方々には衷心よりお見舞い申し上げる。昨今の経済状況から本年も学生の就職難が予想される。校友皆様の1人1人の援助をお願いしたい」とのべられた。

次に議長選出が行なわれ、平野卓氏(土3回東海支部長)が就任した。また議事録署名人に、野尻大五郎氏(化16回)、曾部忠義氏(電20回)が、書記には渡澤正典氏(建14回)中野伍朗氏(化16回)が承認されて議事に入った。承認第1号、平成6年度会務報告では、村田事業部長(土12回)より、現状正会員36,264名準会員(在学生)3,711名、計39,975名との報告や本会財産の状況ならびに会務運営について詳細な報告があった。

承認第2号では伊藤経理部長(電16回)より一般会計について報告があり、これに対する監査報告が石井和樹監査(土13回)よりなされた。審議の結果、拍手をもって承認された。

議案第1号、平成7年度事業計画は、半沢会長より来年度は役員改選の時期であり、現体制で平成7年度は乗り切っていきたい、また工学部50周年記念事業の準備をはかっていきたい、何といたっても校友会の会務の第1は会員の消息であり、会員の掌握にあたっては万全を期していきたいなど10項目にわたって説明がな

され、承認された。

議案第2号、平成7年度一般会計予算案が伊藤経理部長より提案があった。説明によると、平成7年度は会報発行費など、諸般の物価上昇や郵便料の値上げ、会員増による予算額の増加が若干あり、丁承してほしいとの提案があり承認された。議案第3号では、橋本事務局長より、会則改正について説明があった。前年度より引き続けている会則改正は、大略ができて、総会で披露されたが、役員の名称や任務については、本部校友会とのからみもあり、これらについては流動的に企っていく。校友会費は、現在未定であるが、近い将来値上げについて対策を講じなければいけないので、その時期に総会にはかかって決める。平成8年度の総会から新会則による運営をはかりたい。細則、規定等については、現理事会、役員会で決定し定める。などの説明があり異議なしとの声で承認された。

その他の議案では、久野清副会長(建21回)の件が取り上げられた。久野清副会長は、地方統一選挙における公報で本会の秩序を乱したということで校友会に対して謝罪をすること、また、副会長の職を解くことで了解された。そして、副会長欠員のままで本年は、校友会の運営をはかることなどが承認された。

また、50周年記念事業に対する提案があり提案文(入試に関する校友に対する緩和策や、新しい北心寮の建設案など)が読まれたが、大学当局に一応申し入れることで了承された。すべての議案に対して審議は終了し、佐藤副会長の閉会の辞をもって閉会した。その後、引き続き、同所にて懇親会を催した。

懇親会では、日本大学本部から竹内一樹副総長に出席戴いた。また工科校友会会長吹上慎一氏、生産工学部校友会星雅之氏さらに工学部父母会事務局長二階堂充氏日本大学工学部からは、國分工学部長以下多数の役職者の御出席を戴き和やかに、楽しく校友との語らいの一時を過ごした。

会は盛会裏にすすみ、定刻となり、来年の再会を約し校歌を斉唱して解散した。



## 懇親会のスナップから



関分工学部長のご挨拶



懇親の宴



声高らかに校歌斉唱  
日に日に新たに文化の華の…

### 平成6年度一般会計収支決算書

歳入		単位：円			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
会費	1 終身会費	9,500,000	10,140,000	640,000	
	2 人会金	10,500,000	12,370,000	1,870,000	
	計	20,000,000	22,510,000	2,510,000	
繰越金	3 前年度繰越金	6,476,888	6,476,888	0	
	計	6,476,888	6,476,888	0	
繰入金	4 運用財産より繰入金	0	0	0	
	5 特別会計より繰入金	0	0	0	
	計	0	0	0	
雑収入	6 預金利子	10,000	970,368	960,368	
	7 負担金	0	0	0	
	8 名簿代金	6,000	77,000	71,000	
	9 雑収入	7,112	205,000	197,888	
	計	23,112	1,252,368	1,229,256	
合計		26,500,000	30,239,256	3,739,256	

## 歳出

款項	種目	予算額	予算現額	決算額	比較増減	付記
事務費	1 給料手当	4,600,000	4,600,000	4,501,777	△98,223	
	2 保険料	350,000	350,000	299,877	△50,123	
	3 交通費	700,000	700,000	617,090	△83,000	
	4 旅費	50,000	50,000	37,150	△12,850	
	5 交際費	600,000	600,000	498,250	△101,750	
	6 需用費	300,000	300,000	172,244	△127,756	
	7 備品費	180,000	180,000	152,440	△27,560	
	8 印刷製本費	320,000	320,000	191,889	△128,111	
	9 通信運搬費	600,000	600,000	387,286	△212,714	
	10 修繕維持費	10,000	10,000	0	△10,000	
	11 高熱水費	40,000	40,000	30,000	△10,000	
	12 分担金	400,000	400,000	400,000	0	
	13 雑費	150,000	150,000	101,200	△48,800	
	計	8,300,000	8,300,000	7,389,113	△910,887	
事業費	14 組織対策費	1,000,000	1,000,000	876,600	△123,400	
	15 会報発行費	4,800,000	6,838	4,816,848	0	
	16 会員管理費	2,800,000	2,800,000	2,466,205	△333,795	
	17 名簿作成費	450,000	42,574	542,574	542,574	
	18 下宿対策費	10,000	10,000	9,134	△866	
	19 図書供与費	300,000	300,000	300,000	0	
	20 式典費	2,100,000	2,133,341	2,313,341	0	
	21 母校訪問費	400,000	400,000	353,318	△46,682	
	22 負担補助助費	600,000	600,000	550,000	△50,000	
		計	12,460,000	32,263	12,228,020	△231,980
会議費	23 総会費	700,000	700,000	603,155	△96,845	
	24 役員会費	250,000	250,000	214,220	△35,780	
	25 連絡協議会費	300,000	300,000	185,720	△114,280	
	26 旅費	900,000	900,000	884,340	△15,660	
	計	2,150,000	2,150,000	1,887,935	△262,065	
繰出金	27 附属施設等維持費	300,000	300,000	176,196	△123,804	
	計	300,000	300,000	176,196	△123,804	
積立金	28 積立金	2,400,000	2,400,000	2,400,000	0	
	計	2,400,000	2,400,000	2,400,000	0	
予備費	29 予備費	890,000	△32,263	567,237	0	
	計	890,000	△32,263	567,237	0	
合計		26,500,000	26,500,000	24,081,264	△2,418,736	

歳入額 30,239,256円  
 歳出額 24,081,264円  
 差引残額 6,157,992円を翌年度へ繰越しとする。

## 財産の状況（平成7年3月31日現在）

単位：円

一般会計	引当財産	運用財産	合計
6,157,992	4,054,405	35,781,718	45,994,115

### 平成6年度職員退職給与特別会計収支決算書

歳入		単位：円			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
繰越金	1 前年度繰越金	3,779,640	3,779,640	0	
	計	3,779,640	3,779,640	0	
繰入金	2 職員からの繰入金		75,504		
	一般会計より繰入金	300,000	176,196	△123,804	
	計	300,000	251,700	△48,300	
雑収入	3 雑収入	10,360	23,065	12,705	
	計	10,360	23,065	12,705	
合計		4,090,000	4,054,405	△35,595	

## 歳出

款項	種目	予算額	予算現額	決算額	比較増減	付記
引当金	1 職員退職引当金	4,090,000	4,090,000	0	△4,090,000	
	計	4,090,000	4,090,000	0	△4,090,000	
合計		4,090,000	4,090,000	0	△4,090,000	

歳入額 4,054,405円  
 歳出額 0円  
 差引残額 4,054,405円を翌年度へ繰越しとする。

## 「母校を訪ねる会」第15回目を開催

第15回母校を訪ねる会は、学部祭の黄金日、平成7年10月22日(旧)に、第3回卒業生(昭和30年3月卒)48名と第23回卒業生(昭和50年3月卒)1,051名の方々を招致して開催致しました。訪ねる会に先立ち、吹奏楽部員による歓迎演奏を聴き、久方ぶりの感動を味わった。続いて再会の記念撮影を行ない、次いで会場へと向った。会では、学部より改めて今日の工学部の状況について、多方面にわたる説明がありました。

キャンパス計画、増設学科、施設の充実など、昔日に比べると夢のような話でした。中でも入学試験についての情報は、孫のある方にも、あるいは子を持つ方にも、それぞれ最大の関心事となったようです。

これで、昭和56年より始めた母校を訪ねる会に出席された方の累計は1,489名となりました。

なお、出席者の方々は、前日の夜、前夜祭をかねてそれぞれの科のクラス会を催し、郡山の町を「想い出」と一緒に徘徊したようです。



### 母校を訪ねる会に出席して

酒井 暁

私達第3回卒業生は、母校を巣立ってから、早や40年の歳月が過ぎました。この母校を訪ねる会も、前回昭和56年に次ぎ2回目となりましたが、このたびも、地元の太田・松山両君の計らいで、同級会の企画をして戴き、快晴の下、同伴者も含めゴルフを楽しみ、磐梯熱海で一夜を過ごし、卒業以来と言う人とも親交を温め、それぞれの近況について語り合いました。何うところによりますと、悠々自適と申される方は少なく、第二第三の人生を歩んでおられるとのこと、皆様方は健康に留意して頑張っております。

翌日、会に出席しましたが、素晴らしい建物とキャンパスの大きさに圧倒され、右往左往する有様でした。時間が経つにつれて、同級生が集まり、学んだ校舎(兵舎)はどの辺だとか、下宿は今もあるのか、など昔に戻って想い想いに話が弾みました。こうして参加出来たのも、学部の先生方はじめ、この会を企画して

下さっている校友会事務局のご努力の賜物と存じ上げ、心より感謝しております。

学部長より学部の経過を聞き、お話の中から二年後は創設50年の節目を迎えること、さらにその後の50年の構想などを聞いて、先生方のたゆまぬ努力と企画に感銘を受けながら、素晴らしくなった母校の将来に期待をしつつ、母校を後にしました。

(土木工学科3回卒) いわき市建設共同組合



## 「母校を訪ねる会」に参加して

木下 勝 男

オイルショックで不景気の中、昭和50年に日大工学部を卒業した。昭和から平成に年号も変わり、あれから20年、母校を訪ねる会参加のため東北道で郡山へ。約束していた、恩師の西村教授と卒研仲間快晴のもとゴルフを楽しんだ後、地元で活躍している寺山君の案内で、効率的な脱窒素法を確立するための実験プラントを郡山市下水処理場で見学した。宿で、函館から参加の木村君と合流し同級会会場へ向かった。途中、当時ラジオから流れていたCMソングを思いだし懐かしいので「うすい」へ入り一巡り。会場では、悲しいかな直ぐに名前が浮かばない人が多く、20年の年月を感じた。恩師を代表して浪越先生からご挨拶をいただいたが、橋梁の宿題ではなく、哲学の宿題を提出期限20年後ということを出され一同目を丸くした。応援団OBの勝又君のリードで校歌を歌う頃には一時学生へと戻り、時間を惜しむようにその夜は2、3次会へと。翌日の母校を訪ねる会では、國分学部長より母校の近況や将来計画の説明を受け、優秀な後輩が後に続くことを確信した。名残惜しいが、学校関係者、校友会、同級会幹事の方々への感謝の気持ちを胸に郡山を後にし、私の母校を訪ねる会は終わった。

(土木工学科23回卒) 埼玉県下水道課



## 「母校を訪ねる会」に参加して

飛田 祐 夫

母校を訪ねる会の前日、午後2時に茨城県ひたちなか市(旧勝田市、旧那珂湊市合併)の自宅から常磐自動車道路、磐越自動車道路(平成7年8月2日開通)を介し一路郡山へと車を走らせた。早くも午後4時前には到着し、20年前の3時間半に比べ所要時間は2時間弱である。郡山ビューホテルアネックスで開かれる機械工学科第23回同級会は、午後6時の予定である。車は予約のホテルに駐車し、20年ぶりに訪れた郡山の町並みを散策し、東北新幹線の停車駅に変貌した駅前と学生時代から好きで訪れたアーケード内の飲み屋さんの変わらぬ看板を懐かしく思った。いよいよ同級会の時間となり、心弾ませ宴会場におもむろに向いた。



受付には幹事の縫裕訓君が出迎え、参加者は8名との報告を受け一瞬残念さが漂ったが、来賓として、校友会の橋本事務局長、小川明先生、佐藤光正先生、森谷信次先生が多忙の中を同席して頂き、宴が始まるやいなや社会人としての近況報告や母校の変貌等闊達に話が弾み大盛況の中一次会が終了した。参加者全員は二次会へと進み、郡山の夜の街を三次会、四次会と盛り上がりホテルに着いたのは翌朝の3時半であった。

寝不足の中「母校を訪ねる会」に参加し、その日はフレッシュな学生による北桜祭が催されていた。母校を訪ねる会では、國分学部長の挨拶を始め、諸先生方の紹介があり、全学科同級生による立食形式での懇談の場へと移った。懇談では、懐かしい学生時代の思い出話は勿論のこと、諸先生とは情報工学科の新設経緯や昨今の社会経済活動に対して学部はどのような学生を輩出すべきか等を議論した。また、小生の卒研担当である依田満夫機械工学科主任教授と近況での話を弾ませた。

最後に、この会を開いて戴いた学部及び校友会並びに同級会の幹事の方々に対して、感謝申し上げると共に、母校の益々の発展と我が同輩の活躍、そして良き後輩が続出することを願い筆をおきます。本当に有り難うございました。

(機械工学科23回卒) 動燃事業団

## 「母校を訪ねる会」に参加して

松本 修

7月末に高松で「工学部校友会四国支部」へ参加し、徳定、薄皮饅頭、合気道等の言葉を聞くにつけ、記憶の中から郡山がムクムクわき上がるのを感じました。

当日は心踊らせ初めての「あおば」より降り立ち、アルバイト先の花屋の奥さんや、下宿のおばさんを訪ね20年前のお礼を言う事が出来ました。

北桜祭のキャンパスの中、武道館では古定新主将のもと、稽古に励む部員の様子を見て安心すると共に、自分達の時々の様変わりに驚かすにはられませんでした。

その夜の電気工学科の同級会でも、顔と名前が一致しない者とも話す内、記憶が段々と戻って来ました。

翌日の懇親会では、お世話になった先生方のお顔を拝見するにつけても、不勉強を詫びるのが遅すぎた様

でした。國分学部長より説明して頂いた情報工学科等工学部の内容及び建物の変貌ぶりに驚き、情報研究棟の立派さに目をみはりつつも、その横に建つ2号館や自分達の事は書かれていなくとも全面を見て廻った掲示板等が20年ぶりの自分達を迎えてくれました。

最後に今回の機会を設定して頂きました工学部及び校友会並びに同級会の幹事の方々に感謝すると共に、皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

(電気工学科23回卒) ㈱四電工 愛媛支店 工事部

## 母校を訪ねる会に参加して

三井 恒雄

10月20日(金曜日)会社での勤続20年の祝賀会を終えた後、大宮8時7分のやまびこで郡山へ向かう。

9時過ぎ郡山駅に着き、2年ごとに集まっている日本拳法部のOB会へ直行し10時までの1次会に何とか間に合う。翌日は下宿先を訪問し、嫁いだ娘さんなど皆と思い出話をした後、名倉和宏君(郡山市役所)の案内で岡本圭司君(大旺建設)・茂川大治君(五光建設)らの拳法部仲間と建設中の三春ダム・民芸の里・郡山市立美術館を見学して、北桜祭でにぎわう母校のなつかしき武道館へ行く。練習中の後輩を励まし、中庭での演武会を見学した後、今度はクラスメート5人で亡き級友の墓参りに須賀川へと向かう。

夕方から始まった電気23回同級会は遠く愛媛・鳥取などから20人が集まり、國分学部長から学部の新況や将来の学科のあり方などの話をお聞きした後、2次会では一人づつが近況報告をし、8年後にまた集まることで散会した。翌日曜日は下宿先の子供が参加している日大グラウンドでのラグビー教室を見て、母校を訪ねる会の記念撮影場所の中庭へ行く。撮影の後の短い時間で平山慶一君(千葉市役所)・松本修君(四電工)らと工学部資料室へ行き、尊敬する亡き岡部先生の御写真などを拝見した後、楯野秀三君(日本大学工学部)の案内で展望レストランへ行き、郡山の大パノラマときれいな青い空を満喫した。母校を訪ねる会会場の中講堂では國分学部長等の挨拶に続き、参加者代表の米山和男のユーモアあふれる挨拶があり和気あいあいのうちに懇親を深め、勝



又和成君(前田道路)の感動的な日大節で超盛り上がったあと、深田稔夫君(北見舗道)の校歌斉唱で締めとなった。

嵐のような3日間を終え、2年後東京での拳法部OB会で再会することで郡山駅を後にした。

最後に工学部校友会と名倉君をはじめ郡山市役所勤務の7人のスタッフには大変お世話になり本当にありがとうございました。

(電気工学科23回卒) 日本電信電話㈱

## 「母校を訪ねる会」に参加して

菅原 邦元

「同級会」と「母校を訪ねる会」に参加する為、久しぶりに郡山を訪れた。「同級会」は武者義彦先生と佐藤良和先生による就職の現状と、先生の教育への情熱についてお話しがあり、ご指導頂いた当時の化学実験の事が思い出された。次にお互いの近況報告をして時間がたつのも忘れ楽しい一時を過ごした。

翌日5年ぶりに北桜祭を見学し、大学のシンボルであった時計台が無いのが残念な気がしたが、母校の発展の結果であるなら仕方のないことだ。

訪ねる会へ歩を運んでいたら、途中で紺野忠先生にお会い出来、非常に良かった。

「母校を訪ねる会」は学部長の挨拶に始まりキャンパス再開の話し等があった、懇親会に移り先生や同級生との話しもはずみ、再会を約束して会は閉じられた。

在学当時私の所属していた地質研究会は、北桜祭に参加しておらず時代の流れを感じた。

20年ぶりのファイヤーストーム、キンピラゴボウを頂戴した肉屋(現在は弁当屋になっていた。)や当時の私の下宿を見て、学生時代の頃が目に見え懐かしさがしみじみと心を満たしていった。

最後にこの機会を与えて下さった工学部並びに校友会、同級会の幹事の方に感謝いたします。

(工業化学科23回卒) 日本ヘルス工業㈱



告

校友会事務局への連絡にはFAXもご利用下さい  
FAX番号は、電話番号と同じ0249-44-1327

事務局

## 「母校を訪ねる会」に参加して

中山 章

特別に懐かしいと思うこともなく、20年ぶりに母校のキャンパスでの1日を過ごさせていただきました。卒業して20年、かつてのクラスメイトも年齢を重ね、それなりの変化を見せてくれ、我が身もおなじようかと、あらためて知らされました。

母校も、日本という国も、いかにも豊かに変わったように見えます。キャンパスも施設が増え、きれいになっていました。でも懐かしい思いに浸るほどには何も変わってはいないように思えます。僕たちが卒業してからの20年という時間は、もしかするとこの程度の

変化だったのかと改めて考えさせられます。

1995年という年が特別な年とは思いたくないけれど、この20年、僕たちは何をつくり、何を変えてきたのか、自分自身に問いかけてみる良い機会を与えてもらったのだと思います。

そろそろ、自分の子供たちの将来について考える時期になってきています。母校で過ごしたあの時間を、かけがえのない大切なものとして、子供達に伝えておきたいと思います。それは、誰にとってもすばらしい時であること。大切な人たちとの出会いがあること。そしてなによりも、かけがえのない自分自身に出会う場所であることを。

(建築学科23回卒) 中山章建築研究室

## 支部総会・同窓会・クラス会

### 平成7年度東海支部総会

岩波正城

第23回東海支部総会は、7月15日名古屋市内ホテルキャスルプラザにおいて、60余名の校友の出席のもとに開催された。平野支部長より、この1年の経済情勢と支部活動について報告があり、又、半沢会長による大学の近況、特に本学エベレスト登山隊による「エベレスト北東稜の初登頂」の快挙の報告等があり、総会は無事終了した。その後、懇親会に



移り、土曜日にもかかわらずご出席いただいた國分学部長、各科の先生方、事務局の方々の挨拶及び自己紹介が日本大学校歌の流れる中行われた。ビールによる乾杯の後、各々自由に酒を酌みかわし、再会を喜び、友人の消息に一喜一憂し、仕事のこと、会社のこと、家庭のこと等々、飲む程に酔う程に会は最高潮に達し、またたく間に予定時間となり、恒例の日大節、応援歌、最後は全員が肩を組み日本大学校歌を斉唱し、来年の再会を約しお開きとなった。校友は仲間同志誘い合い夜の巷に吸い込まれて行った。本年は学部長の出席により例年以上の盛り上がりを見せた。

支部活動としては、7月の総会、春と秋のゴルフコンペ、12月の忘年会の他、折に触れ色々理由をつけては先輩後輩が集まり飲み、語り親睦を深めています。

(土木工学科14回卒) 共立建設コンサルタント株

### 平成7年度四国支部総会を終えて

支部長 北岡保之

四国支部総会は、去る7月29日例年どおり高松市内のわたや旅館で開催しました。なお昨年の総会での希望でもあり、昼間猛暑の中、坂出C.C.で高知、愛媛からの出席者も含め13名でゴルフコンペを行い、好プレー、珍プレーと大いに楽しい時間を過ごしました。

総会には4県から初めての参加の方も含め21名の出席があり、支部活動を活発にするため、県単位でアカシア会を設立し、支部総会が持回りで開催できるよう話合いました。

懇親会では、半沢校友会会長より大学の近況、郡山の発展など報告いただき、谷久顧問の乾杯の音頭で開宴となりました。酔が回るなか恒例の自己紹介(PR)、昼間のコンペの表彰、カラオケ大会、最後に寮歌、校歌を大合唱し、若き日々の学舎に想いを巡らし、存分に旧交(事報交換)を温め、来年度の再会を約し、無事終了しました。

今後とも、若い会員、単身赴任の方々でも気軽に参加できるよう魅力ある会にしたいと思いますのでご一報いただければ幸いに存じます。

(工業化学科14回卒) 高松市役所



## 平成7年度九州支部報告

九州支部長 湯村 筑 後

平成7年10月20日、第16回総会を天神平和楼にて開催した。出席者は26名で例年より少なめでしたが和気あいあいのなか盛会でありました。いつもの年のように鹿児島などからも参加者がおりました。

当日は、学部祭（北桜祭）の最中にもかかわらず半沢会長にご出席いただきありがとうございます。

また、総会に先立ち10月17日には恒例の総会ゴルフをブリジストンC.C.で行なった。16名の参加者があり優勝は岩切喜八郎君（土22回）でした。



現在九州支部は、福岡全部と佐賀の一部を加えて約500名の会員です。総会などの出席者の多くが土木と建築が中心ですので、他の学科の方々、さらに若い会員の方々の参加を期待しています。会の下部組織として北心会、ゴルフ部会があります。更に月例会を毎月第3木曜日18:30より天神三和ビル地下のロビーサアンにて開いていますので気軽にご参加下さい。毎回5から10名ほど集って飲食をしながら楽しくやっています。

次回の支部総会は、平成8年10月の第2週（金）を予定しています。改めてご案内を致しますのでふるってご参加下さい。お待ちしております。

(建築学科10回卒) 福岡県庁

## 応援団創団50周年記念祝賀会

日本大学工学部応友会会長 塚本 達夫

応援団創団50周年記念祝賀会が、平成7年10月21日ホテル「ラフィネ郡山」にて、石田先生・一色先生・岡部先生・西村学生課長等の応援団に関係の深い先生方をお招きし、北は北海道網走・斜里、南は九州佐賀・大分より多数の会員の出席を得て盛大に行われました。まず、応援団のリーダーのもと、全員で校歌を斉唱し、挨拶・祝辞等の後、祝宴に入り参加OBの近況報告や思い出話に雰囲気は和み、現役応援団によるリーダー公開を望む声が高まり、予定より早い時間に校歌・応援歌・拍手・日大節等のリーダーを披露したところ、現役時代の若き日を懐かしみ感動したOBが次々と壇上で、応援団をバックにリーダーを演じる姿に会場内が笑顔と拍手に包まれ、大変な盛り上がりでした。多数のOBから、この様な会合で有れば、5年に1回は開いて欲しいとの声が聞かれ、創団50周年の節目の祝賀会が、和やかで楽しい雰囲気の中で盛会裏に閉会出来た事を実感致しました。

(建築学科17回卒) 宮城県白石工業高等学校



### 北海道支部

支部長 松山忠壮（土14回）東急建設㈱  
事務局長 塩寺健治（土17回）札幌市役所

### 東京支部

支部長 古村和夫（土3回）古村建設㈱

### 東海支部

支部長 平野 卓（土3回）  
東京エンジニアリング㈱名古屋支社  
事務局長 河野 叶（土6回）秋芳技研㈱

### 九州支部

支部長 湯村 筑後（建10回）福岡県建築都市部  
事務局長 今福 英允（建16回）㈱イマフク

### 四国支部

支部長 北岡 保之（化14回）高松市役所  
事務局長 牧野 隆次（建22回）JA香川経済連

※人生で、人との出会いは貴重な財産であります。縁あって、日本大学の旗標のもと工学部で学ばれた方々がお互いに援け合い励まし合って、社会の一員として活躍されますようご期待申し上げます。

日本大学工学部校友会

## 鉄道研究会OB会が発足

OB会長 榎村 信一

先日（平成7年11月4日～5日）、日本大学工学部鉄道研究会OB会の発会式が、群馬県水上温泉郷の「奥利根館」にて谷川正巳先生をお迎えし開催されました。

学生時代のサークル活動は、在学中の4年間という短い間ですが趣味を同じくする同好の仲間が集まって共に活動していたものです。その時の様々な出来事は、卒業後の今となっても強い思い出として残っています。しかし、卒業を機に交流が途絶えいつしか音信不通になってしまうのはいかにも寂しいことではないでしょうか。そこで、まずは近しい仲間から連絡を取り合いながらOB会といったものの準備を進めてまいりましたが、この度約50名の仲間達に賛同を頂きましたので、これを機に正式に「日本大学工学部鉄道研究会OB会」を発足することとなりました。

発会式では、当サークルの設立時からの顧問である「谷川正巳先生」のお話に続き、参加者の自己紹介と役員を紹介を行いました。世代は違っていても、趣味を同じくする者にとって共通する話題があるということは、知らぬうちに打ち解け合ひまして、いつしか時間が経つのを忘れてしまったような気がします。また、発会の宴を終えてからも先生を交えて朝方の2時頃まで会話を交わしていました。更に、今回の会場として選らんだ旅館が鉄道線の沿線であった為、露天風呂からまた部屋の窓から、それぞれ夜遅くまで鉄道見物をしていただいていた方もいらっしゃったようです。

翌日の解散時には「また近いうちにお会いしましょう」と再会の約束を各々交わし、別れました。短い時間ではありましたが、同じ趣味を持つ仲間達と充実した日を過ごすことが出来たと思います。

今後の予定としまして、「北桜祭に母校を訪ねる会…By鉄研」といった企画や忘年会などを行いたいと思っております。

（電気工学科34回卒）東海電子工業(株)

榎村信一  
（編集子付記）



## 機械工学科第5回生同級会

赤坂 嘉一

平成6年11月25日、一色、吉沢両先生を東京にお迎えして、同級生21名が集い盛大に同級会を行ないました。その席で全員が還暦をむかえる平成7年には、郡山で同級会を開催することに全員一致で決定し、在郡の人が幹事となり、10月22日に母校集いで実施されました。出席者は一色先生を含めて16名（吉沢先生は眼を悪くされて欠席）でした。折しも「学部祭（北桜祭）」「母校を訪ねる会」と重なり、にぎやかで、学内の建物も立派になり往時とは隔世の感がありました。卒業以来38年ぶりの者も居て母校の発展ぶりを目の当りにして感慨ひとしおでした。校友会からの茶菓をいただきながら恩師のことやら北心寮での思い出話にいつときを過ごし、帰りには資料室を見て又々当時を思い出し、懐しんだりして母校を後にした次第です。続いて懇親会を母畑温泉「八幡屋」にて行ないました。記念撮影のあと乾杯に入り酒が廻るにつれ遠い青春時代を少しづつ思い出しながら、また故人となった同級生の話やら夜の更けるまで尽きることなく続き、楽しい有意義な一夜となりました。平成8年度は、四国で行うことを約し、それまでお互いに健康に留意して又元気に顔を合わせることを誓って別れました。



### お願い

#### 日本大学工学部校友会 会報編集委員会

この厳しい世情の中、校友の皆様には益々ご清栄のこととご推察申し上げます。

さて、会では、皆様の日常の中に、これは校友に紹介したいと思う事柄が、多分しばしばあると存じます。これを、一文をものにするなら少々めんどうだが、1枚の写真にコメント付けるぐらいなら「校友情報」として提供できるというものがあると存じます。編集子はこれら情報をご提供くださいますようお願い申し上げます。投稿は下記に従ってください。

記 コメント投稿字数 70字まで

写真1枚 (12cm×8cm) 以上

## 新入社員＝無我夢中



向春の候、日本大学工学部校友会会員の皆様におかれましては、益々、ご清栄のこととお喜び申し上げます。会報寄稿依頼を預かりまして「若葉マークがんばり記」に、私の近況報告をしたいと思っております。

私は平成5年に日本大学工学部電気工学科を卒業し、現在は、(株)日立メディコ品質保証部MRI品質保証課に勤務しております。(株)日立メディコは1949年に会社創立され、1969年(株)日立製作所の医療機器部門を継承し、亀戸工場開設、1970年現在の千葉県柏市に新工場が完成すると共に柏工場へ移転し現在に至っております。1991年東京証券取引市場第二部へ上場、資本金139億円、従業員約2,500人、売上高約1,000億円、開発・製造・販売・メンテナンスと一貫した事業展開を行っております。製品は、医療分野では、診断装置：「診断用X線装置(レントゲン)・X線コンピュータ断層装置(CT)・磁気共鳴診断装置(MRI)・核医学測定装置・診断用超音波装置」、治療装置：「高エネルギー治療装置(マイクロトロン)」、画像情報分野に医用画像管理システム、又、産業分野では、空港で使用する手荷物X線装置等があります。

さて、景気動向が依然不安定な現在、医療分野は景気に左右されないと思っておりましたが、(株)日立メディコも円高気運の煽りを受けた会社のひとつであります。私の学生時代を振り返り就職は夢実現への第一歩でありました。私が就職活動をした平成4年から就職難の幕開けでありましたから、現在、大学在学中の一般企業への就職希望者におかれましては大変厳しい状況にたたされ深刻なことかと思っております。私が思い通りの就職が出来たのは高校3年生の時、私は医療機器業界へ導いたある人との出会いのおかげで、私は自分の就職活動に妥協を許さなかったからでしょう。

私は大学1年生時、数学科の池田先生の紹介で、個人的に数学科の戸次先生の元で半年程、機械科の大学院生数名と共に、流体力学の読解法を学びました。大学2、3年生時、私なりに医療機器分野の計測器・診断装置といった医療機器の体系を整理し、電磁気学的な現象に人体が関わり合うことの意味を追い求めていました。大学4年生時、電気工学科の穴戸先生の元で卒研の傍ら、私は医療機器分野への就職活動を展開し、各社の工場を見学しMRI装置を目にして卒研室へ戻ると、MRI装置の動作原理

(株)日立メディコ品質保証部MRI品質保証課  
鈴木政昭

を学習し、ラーモアの歳差運動(宇宙ゴマの様な運動)と磁石と電磁波が作り出す人体の断層画像の魅力に夢中になっていました。そして今、当社のMRI装置には、超伝導磁石タイプと永久磁石タイプとありますが、現在その中の永久磁石タイプを私が担当しております。

私の所属するMRI品質保証課の業務内容は、顧客先注文仕様を組み上げたMRI装置の検査・管理・トラブルに対するアドバイス・不良解析・修理・認定試験等が日常の業務となっています。

私の業務近況としては、MRI装置オープンガントリータイプ(AIRIS)、システム一式の認定試験を任せられ安全性・操作性・信頼性・電氣的試験・機械的試験・寿命試験・撮像した画像の評価等多岐に渡る最も重要な試験を3カ月実施し試験報告書を纏め上げたことです。そして、この製品はグッドデザイン賞を頂きました。

又当社製品は、国内は勿論のこと全世界に事業展開をしているので、世界各国から見学、実習等で工場を訪れるお客様が、年々増えております。MRI装置部門でも、実習・研修を実施しています。研修は講師数名で専門分野別に担当し、設計概論～オペレーション・装置調整等中心に教育をします。私も平成7年11月、イラン、インド、エジプト、南アフリカ、スウェーデン、中国、ネパール、トルコ(イスタンブール)、フィリピン、ミャンマーの各国から来社されたエンジニアの方々15名のMRI装置の教育を担当しました。全員が英会話の出来る方々で、通訳無しで講義でした。私は、入社時英会話の社内講座を受講し又若干の下地も有ったので何とか教育期間(20日間のうち3日間)を遂行する事ができました。そして、教育を通じて各国の経済状況・電力事情・技術情報・医療情報等について情報交換することができ大変貴重な体験をしました。あらゆる分野でのグローバル化が個人個人に要求されているのだと実感しました。

このように、私は学生時代から医療機器にこだわりをもち今日に至るわけですが、これまでの道のりは決して易しくはありませんでした。そして今、私にとって本当の目標実現化は、始まったばかりなのです。

最後に、大学在学時の同じクラスの仲間、余暇に約1年間モダンジャズ研究会でジャズに触れてた時の仲間、大学3、4年生時には体育科の金田先生のゴルフゼミに参加し練習を共にした仲間、又環境的に恵まれ修得したスキー等で共にした仲間は今でも思い出深く、いつの日か再会したいものです。

(電気工学科41回卒)

## 医薬医療をとりまく現実

旭化成工業株式会社医薬医療事業部門 医薬医療企画 技術企画グループ 部長  
野元克彦



### はじめに

私達の年代は従来の右肩上がり  
の経済発展中心主義から脱皮すべく、日本中が躓いている社会構造の変換期に面し、職場では責任者として、家庭では子育てからの開放による妻との二人三脚の準備にある。切実に健康と呼ぶKey-wordを無視

できず、企業戦士としての酒、煙草、不規則な食事、休日ごとに適度の運動を思い浮かべても実行できず、それでいて安らぎを真剣に夢見る人生の峠に差し掛かりつつある。『全ての国民は健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する』と憲法で謳ってある。国民皆年金と国民皆保険体制を達成している中で、病気治療と老人介護は充分に受領できるのか気になっている。完全雇用と高い経済成長率を維持している時代は社会保障の充実が可能であったが、平均年齢の高齢化は就労期間の延長と厚生福祉年金等の給付開始を遅らせても、解決が困難な程の運用上の問題を抱えている。社会保障とは、医療保険（疾病の診療保障）、年金保険（高齢時の生活保障）、労災保険（治療と収入の保障）、失業保険（雇用の保障）を含んでいる。これらの出費の中心は医療費と年金支払い、福祉負担費である。バブル崩壊後の社会保障費用の負担は増税と保険金の増額の形でしか解決策が語られていないが、欧米の医療制度の動きも参考に、制度そのものの大幅な変革が求められている。

医療制度の改革は、国民の医療と福祉全体に競争による効率アップを導入しようと苦慮しているアメリカや、医療報酬の出来高払いを診療予算制限方式にしたドイツ、患者個人負担率をアップさせたイタリア、等と同様の財政面の思い切った改革の実行を迫られている。

医薬医療事業とは、人の最適な成長には最良の健康状態が必須であり、疾病の消失は当然のことだが、肉体的にも精神的にも社会環境をも、きちんと整える事が大切である。Human life needs best possible health for optimal development. By this is meant not only absence of illness, but the condition of complete physical, mental and social well-being.

私の医薬医療事業戦略論の冒頭の文章である。

医薬医療産業は経済的に他の産業と異なる特殊な性質を持っている。第一に、消費者（患者）は十分な情報が与えられず、診断や治療方法の選択が出来ない。

第二に、患者はほとんど直接に医療費の支払いを行わず、保険機構が支払う。第三に、医師は患者の依頼を受けて診療を行うが同時に医療費の支払い側のコスト管理の代理人の働きもある。診療行為は医療費に直接結びつく診療報酬と薬剤費を同時に支配している。第四に、厚生省による国民の医療保障制度の枠組みの中での競争であり、診療報酬や薬剤選択に他の産業に見られる熾烈な価格競争はないという点です。

医療費の高騰を招く原因は、老人福祉費の占める異常な伸び、診療技術の革新、疾病構造の変化に伴う長期医療の増加、医療保険制度の非経済的な運用等が野放し状態にあることである。日本の医療制度の問題点を纏めると以下の様になる。

1：医療費の膨張：人口高齢化や診療技術の進歩、医療保障の充実が原因である。

2：成人病対策の遅れ：集団検診と診断技術の進歩向上は人口高齢化を押し上げ、疾病構造の変化と長期慢性型の疾病の増加を加速させ、予防－維持－栄養等の成人病全般に広く深い知識と包括的な保健対策を要求されているが、介護人－訪問看護－養護老人ホーム等の制度上の不備が、病院側の過剰診療や検査中心の医療に走り易い要因になっている。

3：受療機会の不平等化：医療保障は費用負担の面での平等化を実現したが、都市部への医療資源の集中化が進み問題が生じている。

4：医療資源の配分：就労者中心の医療保障をいかに老人対策、特に寝たきり老人や精神障害者等への配慮が疎かにされがちの中で、いかに、弱者救済の精神を貫けるかが問われている。

5：福祉の医療化政策の限界：介護の費用と医療の完全な分離ができず、介護サービスと医療サービスの違いが明確でなく、在宅介護を含む療養型の慢性疾患をいかに円滑に治療を実施するかが定まっていない。

6：医療施設の明確な役割：専門治療と高度治療の集中施設群、寝たきり老人の医療と介護を担う群、地域の中核病院群、外来や慢性疾患を担う病院群、それぞれの施設の特徴と役割を細分化し医療と福祉の両面から患者に対応する時代に備えねばならない。

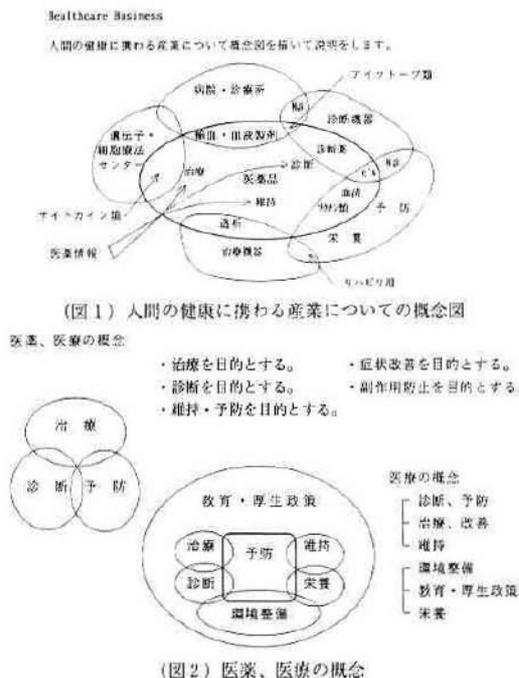
医療制度の改革は国民への保障面の満足と、厚生福祉の充実を無視出来ないが、患者負担の拡大が治療効果の向上と癌末期患者や慢性老人病患者の人間らしい生活環境の確保につながるなら、医療施設と診療行為の選択の一つとして定着させられるだろう。医療施設側は当然にその円滑なる経営と、効果ある治療をバランス良く運営せねばならず、医薬分業と呼ぶ基本的な

医師と薬剤師の責務の範囲の問題も解決せねばならない。医療費は医師等の診療報酬費と患者に投与される薬剤費に大別される。

日本の国民医療費は約25兆円（平成6年度）である。この金額は医療施設での検査代金、診療報酬、入院費用などと、投与された薬剤費約6兆円を含んでいる。薬剤費は薬価と称され厚生省の認可算定される薬剤と、医師の処方箋の不要な大衆薬が含まれている。

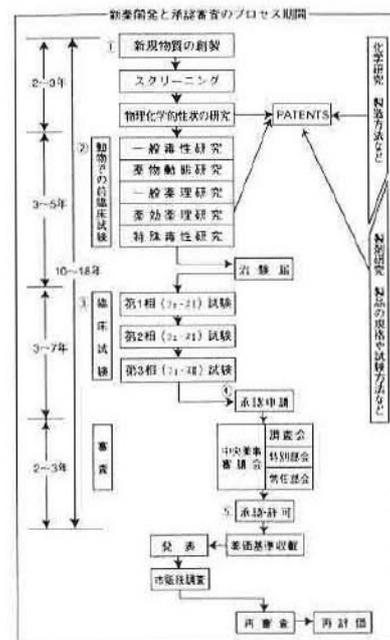
医薬医療事業の柱は処方箋薬剤の市場であり、約5兆円です。医薬品の選択は医師の治療処方箋で決まり、薬剤師の管理下で患者に投与される。厚生省、製薬企業、医療機関、流通業者は薬剤使用の適正化、薬価基準の適正化、ジェネリクス（特許の切れた薬剤の同一商品で、研究開発費用の償還がないのでオリジナル商品より安い薬価である。）の使用拡大等の経済的な圧力と、インフォームド・コンセント（医薬情報の患者への伝達と投薬の了解）を含んだ諸試験の国際統一規格の導入や、海外のデータの使用と活用、海外政府と海外製薬企業からの閉鎖的な門戸開放の圧力に揺さぶられつつある。約5兆円の市場は世界市場の20%を占めており、厚生省の保護政策下の産業から自由化と呼ぶ他の産業に遅れて押し寄せてきた国際化の大波の中にある。

以上の医薬医療の置かれた環境の中で、患者の苦痛を和らげ、病気の完治と沈静化を目指し、よりよい生活環境の整備と健康の回復と保持について、私達が取り組んでいる医療事業とは何かを述べます。図1の概念はhealthcare businessを描いてあります。医薬品の使用目的と効果は図2に、治療薬から予防薬の時代への移行を念頭において描いてあります。



特徴を纏めます。

- 1) 高度知識集約型である。「研究開発が基本の最新最高の生命科学の産業である。知的財産への投資が中心でもある。」
- 2) 行政主導型である。「製品の製造・販売・価格の許認可は全て行政が決めている。」
- 3) 高付加価値型である。「医薬品はガンマー、ミリグラムという非常に少量の単位で計量される。比較的に価格が高い。製造は少量多品種型である。」
- 4) 長期計画展望型である。「新薬の研究開発期間が平均15年かかり、承認後は急激に販売ピークに高まり、なだらかに先行投資の回収に長期サイクル市場継続をつづける。上市後は副作用の発現に注意を配り、他社の競合品の出現と特許失効対策に対して追加効能と新剤型の導入で市場防衛に努めている。」
- 5) ハイリスク・ハイリターン型である。「新薬開発の成功確率が非常に低く、期間も費用も大きくリスクが大である。しかし、一旦成功すれば高付加価値と相まって大きなリターンが期待できる。医薬品産業は集約度が低く、市場占有率が10%を越える企業は出現していない。リスク分散を考慮してM and A（企業間の吸収・合併）が国内外を越えて進行する事が予測される。海外は非常に盛んである。」
- 6) 国際必須型である。（海外共同研究、開発、市場拡大、国際化を避けては生き伸びられない。新しいメカニズムと治療効果の高い新薬候補品の世界的な減少傾向の中で、多国間の承認を目標に共同作業は必然である。生き残りをかけた複雑な業務提携が国際間で実行されつつある。ライセンス、アライアンスなどはその形であり、医薬医療事業の戦略構築の大切な部分である。」



新規化合物の創生から始まり、薬理、生理活性のスクリーニングで活性を確認し、候補品を絞っていく。目標は病气患者でGCPガイドラインに従った臨床試験での効果確認です。患者に投与する前に対象疾患の動物モデルや薬理活性メカニズムの解明と、競合品目標との比較試験を実施する。安全性の確認は中長期6～12ヶ月連続投与等の毒性試験、発癌性試験、生殖発生毒性試験があり、GMPガイドラインに従い実施します。候補品の選択は平均10万個の新規化合物の中から1個が残る程の確率である。他の産業と比較して研究開発費の占める割合が異常に多い、製薬企業の総売上の10～15%は当たり前前の産業構造である。

科学の進歩は治療効果をブラックボックスのままに在ることを許さず、より高度の試験と複雑な治療行為の中の医薬品の安全性を追求する傾向は強く、薬害補償、製造物責任（PL法）の面からも非常に厳しい試験を要求されている。新薬に平均15年の研究開発期間、試験項目の増大と平均200億円の開発費用、新薬誕生は共同作業を抜きに語れなくなってきた。遺伝子操作技術を駆使した生命科学の分野は人間の倫理感や、製薬企業の社会使命に大きな変化をもたらしている。治療内容も従来の単一薬剤投与から、併用投与、診療機器を応用した複合的な他面的な診療に変化してきている。薬剤はGMPガイドラインに従い製造される。  
GCP: Good Clinical Practices. 臨床試験実施要領  
GLP: Good Laboratory Practices. 安全性試験  
GMP: Good Manufacture Prac. 製造&品質管理  
GPMS: Good Post Marketing Surveillance Practices

#### 再審査申請の為の市販後調査規則

医薬医療事業の中の国際的業務について光り輝く、表の顔は、貿易・技術交流・海外開発・駐在員活動・現地法人での生産販売・海外研究派遣、等々であるが、影の部分は表の活動をスムーズに進行させる緑の下の仕事であろう。LicenseとかBusiness Developmentと和訳困難なタイトルで語られる業務が影の部分の名称です。技術導出入の交渉、技術の評価、商品開発、新規事業の企画、対外折衝、あらゆる提携に携わるために経営陣に直接に報告する戦略企画部門に属し、比較的自由的な発想を求める傾向が強い。目的の一番は、自社独自の研究開発の結果獲得した医薬候補品や商品の海外市場への進出の実行である。海外パートナーの選択、条件交渉、契約締結である。目的の二番目は、逆の場合で、海外からの導入で日本市場参入の権利獲得の折衝と、条件闘争に比重のかかる仕事である。医薬品の品揃えと治療領域の強化、競合品対策、投資回収の強化を図りながらの経営戦略そのものの実行部隊でもある。目的の三番目は、新薬候補品まで絞り込むまでの段階での共同研究を中心とした、大学・研究所、製薬企業間での初期投資と基礎研究への投資を含む折

衝です。幅広い長期研究・次世代技術への関心・医療技術の向上に伴う新規事業（遺伝子治療法での製薬の意味と役割、放射性医薬品の利用、人工臓器の活用、他、...）21世紀に向けての情報収集、医薬教育、健康分野の広い知識を技術と繋ぐ仕事である。兼業企業、例えば、旭化成、東レ、日本タバコ、三菱化学、協和発酵、等にとり、医療事業は明日の経営の柱にしたいとの意向が強く、医療事業の特殊な面の理解に相当なエネルギーを使いながらも医薬・診療・治療食・在宅看護・検査の健康産業に進出し、製薬企業に負けないように頑張っている。Allianceは提携を意味し、相互補完的提携と国際間の技術・研究・販売・資金に関する緩やかな相互協力を呼ぶ。製薬企業が単独で医薬医療の全分野で生き延びるに集約度が小さく、当然に、複雑な網の目模様の提携が形成され、日本だけで1万6千種の登録医薬品が存在し、武田薬品を先頭に市場占有5%を越えられずに200社がしのぎを削る産業である。

最後に、現在の海外担当に至るまでを少し述べます。学部を卒業して約30年、海外生活の期間が10数年を越え、海外の大学と大学院の研究員としての経験も重ね、元来の自分自身の性格とうまく相乗作用し、時代の要請する業務担当能力を自然に身につけてきたみたいである。責任者としての経験と年齢、英語・独語を含む国際会話力の保持、異文化への興味と理解、歴史・文化・スポーツなどの日常会話への取り込み、興味を広く持ち人間に関心が強い性格、夫婦単位の行動への慣れと最大協力者の存在、医薬医療分野の平均的な知識力と理解力、そして一番大切な「自分の言葉で自分の意見を言う」この訓練を若い時代に経験出来、自然に身に付いたことです。これらの僥倖ともいえる環境に欧米の友人知人が業務を越えて助けてくれます。但し、大きな組織内での個人の能力の評価と適材適所がうまく機能する場合は珍しく、現在の業務に好ましい姿で力を発揮できる地位にあることは幸運以外の何物でもない。今、日本の医薬産業は国際化の大波に飲み込まれないように、種々の将来布石を置き、長期戦略の中心に収益性と事業拡大に加え、社会との関わり（Social Commitment）を掲げ、生き残りに必至である。難病対策、老人介護、癌・エイズを含む末期患者の救済、アトピー・免疫不全、ストレス対策、市場中心の新薬研究の中に治療法や治療薬の無い難病、慢性疾患そして予防医学の推進は正に社会に対する確約でもある。恩師である高木昭氏、故高野・菊池両先生がドイツ留学時代に訪問してくださったり、声の便りに励まされたことが今日の私に何か残して下さいました。今回、高木先生の『何か交友レポートに書いたらどうだい？』に蛮勇を奮い応じた理由であります。いつまでも健康で私の師を継続していただきたいと念じて筆を止めます。（工業化学科15回卒）

私が本学部の建築学科を卒業して、十数年の歳月が過ぎました。学部の卒業研究は、構造系の黒田浩司先生の研究室で、大学院では、建築計画第一研究室の佐藤平先生にお世話になりました。卒業後は、建築設計事務所設計・監理を学び、その後、施工会社を経て、現在は仙台の専門学校で、建築の教鞭を執っております。まだ3年目、漸く教育現場の現状を把握し始めたところですが、これから自分なりの専門教育観を確立し、実践していこうと考えているところです。

教育界も、将来的な18才人口の減少の中で、“私学冬の時代”などと叫ばれている昨今、建築教育の質の問題についても、徐々に取り上げられるようになりました。専門学校の場合大学と異なり、第一に即戦力の人材育成が教育目的となります。とは言うものの、建築の目的もわからないうちに、目先の実務知識だけを詰め込んでも、学生の学習意欲を呼び覚ますことはできません。建築教育を、学生にとって魅力あるものにする必要があります。建築教育を楽しくしてあげること、これには種々な方法があると思いますが、全てに共通するキーワードは、「わかり易く教える」ということだと思います。当たり前のようなこの努力が、意外になされていないのではないのでしょうか。それは単に、質のよい教材を作る努力という意味だけでなく、それを学ぶ意味、いわゆる目的を学生にしっかりと認識させて教える努力が、もっと必要だと思います。建築という仕事の意味・目的・すばらしさ。学生には、その全体像が見えていません。建築の目的、一言で言ってしまうと、生活（空間）を種々な意味で楽しくすることだと思います。これが、建築の目的であり、それを達成するために様々な小目的（目標）があるわけで、それが各専門分野です。したがって、その目的達成の手段として直接関係のある設計製図が、学校の教科目の中心になるのは当然のことだと思います。従って、各専門教科目は常に設計製図の方を向いているべきであり、設計製図教育をサポートする形で存在しなければなりません。しかしながら、そのようなサポートなしで、学生が設計製図に取り組んでいるのが、現状ではないのかと思います。学生の、自主学習だけに期待しては、あまりにも無責任と言うべきかもしれません。学生にしてみれば、種はまいても肥料は与えられずに、多くの実りを期待され、混乱と無力感をいだいてしまうのは仕方のないことですし、建築の技術者としての面白みには、とうてい触れることができません。このことが、見てくれだけの意匠偏重の設計教育に偏っていく原因だと感じています。設計の技術者としての楽しさは、各専門科目を系統だてて総合的に学び、設計製図に生かしていくことによって、より

深まって行くのだと考えます。そのような設計製図との関係があつてこそ、各専門教科目の教育が、建築教養教育から魅力ある実学教育へと脱皮していくのだと思います。

本来カリキュラムは、教育目的によって選ばれた教育科目を、学習者の発達・学力の程度に応じて系列化されたものでなければなりません。教育の時間的順序からみたシーケンスを縦軸として、教育の内容的分野からみたスクープを横軸として、両者を交差させることにより、カリキュラムは組み立てられます。つまり、各教員が共通の教育目的を認識した上で、各教科目のシラバス（講義内容）を決定し、同時にその横にらみをするることによって、縦割り教育から有機的な発展性をもった教育へと変容させることができるのです。

教育も、カリキュラムをコーディネートすることによって、より魅力あるものにできると考えています。

私の勤務している学校では、平成7年度から建築士専攻科を開科しました。これは、専門学校を卒業後、進学する1年制の科です。前期は2級建築士の資格を取得して、後期は建築士としての総合的な実務を、習得することが目的です。後期カリキュラムの積算・施工図・施工管理・室内設計・申請実務・測量においては、その共通目的を達成するために、教科間で関係を計っています。その方法として、RC造2階建の事務所の設計図書一式を各教科の共通教材として使用しています。そして、共通教材の建築物の法規チェック・建築確認申請・積算・施工図・現場管理・インテリアという一連の実務をシュミレーション化して、シラバスどうしの関係を計りながら、各教科目で分担して教えています。基本教材の一つにすることで、各教員が全ての科目にかかわりができ、有機的な意見交換が可能になったと思います。学生にとっても、建築を実務面で総合的に学ぶことができ、『わかり易い教育』に一步近づけたのではないかと、考えています。

さらに、このような専門士教育をすすめる中で、建築という仕事のすばらしさ、おもしろさに気づき、自らすすんで独創的な答えを探り始める学生諸君も大勢います。そのような学生の中には、大学で、より深く専門教育を受けるのがふさわしいのではないかと思われる者も多く、大学編入の手だてのない現状が残念に思われます。今後は、建築実務に東ねられたカリキュラムのスクープを広げるために、専門学校と大学間の連携が具体的に計られるべきでしょう。

将来の、建築界を背負う人材を育てていく者として、単なる専門士ではなく、バランスのとれた建築人を育てていきたいと思っています。

(建築学科30回卒・工学研究科修士14回修了)

## 大学入試に思う

日本大学三島高等学校 国府方 一 吉



工学部を卒業して早くも24年。光陰矢の如しの古い諺を心底から感じ入っている今日この頃です。

私は工学部を卒業した後、都内の企業で1年間エンジニアの卵として働いておりましたが、縁あって母校、日本大学三島高校に奉職することになりました。教壇に立ってからの6年間は、工業科で機械に関する教科を教えていました。その後工業科の廃止に伴って英語科なる畑違いの道を歩むことになり現在に至っております。大学4年の夏のことで一人ヨーロッパを歩き回って参りました。その時、私には若干自信のあった英会話でしたが、いざ話をすれば何回となく聞き返されたり、またユースホステルで出会った東京のA大学生の語彙の多さに驚いたりでこれではいけないと思い、このときを機に私の英語学習は再スタートすることになりました。

卒業してからは、会社の仕事を終えると新宿の英会話学校へと通ったり、英会話の本やテープを買ったりして新米社員の給料の半分は『趣味の英語』に費やされていきました。また、日本大学三島高校に勤めてからは通信教育を受けるなど、語学に対する関心を更に深めて参りました。この結果を自分のライフワークに少なからず生かせることは、幸せなことだと思っています。

さて、最近では小学校や中学校でも「ゆとり教育」を提唱していますが、そのために、当然今までの教科の単位数は削減されることになりました。特に選択教科の外国語(英語)などは恰好的となっています。静岡県内の公立中学校での英語は週3時間(実質2.7時間)の学習です。高校においても平成6年度から、男子生徒の家庭科が必修となりました。さらにはゆとり教育の一貫として第2・第4土曜日を休みとしなければなりません。こんなわけで英語の単位数は当然のことながら最低数ぎりぎりにせざるを得なくなりました。3分の2の生徒は「好きでない」と言っている英語ではありますが、大学へ進むためにはどうしても習得しなければなりません。このような条件のもとで、一生懸命努力して、都会に設置されている付属高生達と受験戦争を戦う生徒達は、とても不利ではないかと思えてなりません。地域差と言ってしまえばそれまでですが、生徒達は自ら田舎を選んで生まれ育っている訳ではないのですから。また、最近は一芸一能に秀い出た者の推薦を受け入れる大学が増えてきましたが、大変良いことだと思っています。日本の大学は欧米の大学に比べ、「学習意欲に欠ける、レジャーランドの

様だ」などと言われていますが、教職に身を置く者としては残念なことだと思います。日本の大学も勉強意欲のある者に広く門戸を開くべき時が来たと思う。何の為に大学へ進学するのか、大学では何を学びたいのかも解らないまま大学に入学し、教室では私事、私語に熱中し、気がつけば学習について行けないからと、いつの間にかキャンパスから姿を消してしまう。こんな学生ではなく、目的・意識のしっかりした者を入学させる方が、大学の社会的使命を果たすことにプラスになることは疑う余地がない。一芸一能に優れた者が、その方面は勿論他方面にも積極的であることは事実であります。○×教育とか、偏差値による足切り等、本来教育の場に必要とされていた人間味がないとして、ゆとり教育が提唱されましたが、以外にもゆとり教育を実践する段となると時間的にはゆとりのない教育を行っているのが現況ではないでしょうか。今もあとを絶たない小中学校でのいじめの問題もこの辺に原因の一つがあるような気がしてなりません。

日本大学としては勉強意欲が旺盛で、かつ学力の高い生徒を入学させたいのは当然のことではありましようが、大学入試が変われば高校の授業も変わります。高校の授業が変われば高校入試も変わります。そうすれば中学・小学校の授業も変わるはずであります。大学を活気あるものにすると共に、心豊かな人を育てるために、また小学校から高校まで、もっと人間性を大切に授業が展開できる様にするために、新しい大学入試の在り方をご検討いただきたいと思っています。

(機械工学科20回卒)



付記：日本大学三島高等学校出身工学部在籍者数  
平成7年5月現在・工学部教務課資料より

学 年	三島出身者	対全在籍者割合
1	42(名)	3.3 (%)
2	46	3.9
3	48	4.3
4	66	5.6

この他5年生以上  
が20名おり、三島出  
身者総数は222名で  
 $222 \div 4,936 \times 100 = 4.5\%$   
(編集子)

# 校 友 短 信

## ◇福地利夫先生

拝啓 三寒四温の候皆様には益々御健勝のこととおよろこび申し上げます。さてこの度は校友会報をお送り頂きありがとうございます。定年後三年、キャンパスのたたずまいはさほど変わっておりませんが、貴紙「Campus」を拝見して、中味が大きく変わりつつあることに驚いています。諸行無常の感を深くしています。お陰様で私は至極元気です。御礼少々近況まで 敬具  
(H.7.4.4受)

## 土木工学科

### ◇加藤克彦 (32回卒、小牧市民病院)

今春、川崎医科大学を卒業いたしまして小牧市民病院で一年間研修することになりました。これからは、新しい修練の場でお一層の努力を、と思っております。  
(H.7.5.23受)

### ◇駒井政明 (23回卒、株浅沼組)

20年たち皆とお会いしたいと思います。現在麻生で地下鉄工事に従事しており10月は夜間作業が多いため、残念ながら母校を訪ねる会に行けません。次回は是非！  
(H.7.9.13受)

### ◇伊倉典司 (23回卒、株熊谷組)

会社の行事と母校を訪ねる会の月日が重なって出席できません。卒業後、ほとんど同級生とも会っていないのでとても残念です。  
(H.7.9.21受)

### ◇安藤真樹 (23回卒、相模鉄道株)

昭和50年卒業以降、相模鉄道株勤務です。現在は綾瀬市等で区画整理事業に従事しております。母校を訪ねる会は出張のため出席できません。残念です。  
(H.7.9.25受)

### ◇多田淳一 (14回卒、井上工業株)

11月1日に東北支店に赴任しました。よろしくお願ひします。  
(H.7.11.15受)

## 建築学科

### ◇影山諒 (3回卒)

昨年4月末日で株伊藤喜三郎建築研究所を退き、現在は自分自身の充電と大病院計画の基本構想の依頼と総合建設設計指導の仕事ボランティア的に行っています。  
(H.7.9.6受)

### ◇丹治郁夫 (22回卒、東北電力株)

校友会報を、お送りいただきありがとうございます。毎回、内容が濃くなっていくようで時代の変化の早さを感じています。

(校友会の事務局へのお便りや、連絡などから) 無断で掲載いたしました。ご了承ください。

(H.7.5.4受)

### ◇秋山智洋 (23回卒、秋山建設株)

過日、母校を訪ねる会に出席し久しぶりに旧友に会うことができました。学生時代の思い出が1つ1つ頭の中にうかびました。ありがとうございます。また、いつの日か訪ねてみたいと思います。

(H.7.10.30受)

### ◇阿久津孝 (23回卒、鹿島建設株インドネシア営業所)

仕事の都合で、母校を訪ねる会に出席できず残念です。ご盛會を祈念しております。

(H.7.9.25受)

### ◇石橋重雄 (23回卒、昭海建設株)

母校を訪ねる会、都合がつかず不参加で残念です。福島に空港も出来たとの事、ぜひ一度母校に行ってみたいとは考えています。御連絡ありがとうございます。

(H.7.9.29受)

### ◇五十嵐真由美 (23回卒)

卒業したのはついこの間のような気がしていましたが、母校を訪ねる会のお知らせがきて、はじめてあれから20年がたったんだと気がつきました。20年ぶりに同級生の皆様とお会いしたいと思います。残念です。

(H.7.9.20受)

### ◇磯村能久 (23回卒、トヨタ自動車株)

卒業以来、建築技術者として、会社の工場などの施設の建設を担当して来ました。今年から住宅部門であるトヨタホームの仕事に従事しています。

(H.7.9.14受)

### ◇岡田和重 (23回卒、県立天竜林業高校)

一堂に顔をそろえるチャンスのない同期生が集まる時、母校を訪ねる会に参加できなく残念でなりません。次の機会を楽しみにいたします。

(H.7.10.2受)

### ◇重道正 (23回卒、株重道組)

新幹線で郡山駅を2度通過していますが、20年前の駅とはずいぶん変わってました。母校を訪ねる会の案内がきたら必ず出席しようと決めていたので、当日が楽しみです。今から級友の顔を思い出しています。

(H.7.9.11受)

### ◇南雲良彦 (23回卒、新和コンクリート株)

卒業してもう20年になるのですネ。目をつぶると在学中のことが、つい先日のように写ります。私はいま、コンクリート製品関係の技術関係の仕事をしています。公共の仕事が主な会社です。仕事の関係で、母校を訪ねる会には行けません。

(H.7.10.7受)

◇山田順 (23回卒、山田塗装工業所)

卒業以来、20年間訪ねる事の無かった母校へ一区切りとして訪問できる機会があると言う事は、大変嬉しく思います。学生時代には、日大新聞社の郡山通信記者として経験した事は、実社会に於いて大変プラスになりました。今、その頃の友や学校での事がなつかしく思いうかびます。母校を訪ねる会でのあらたな出会いを楽しみにしています。

(H.7.9.6受)

◇瀧口繁 (27回卒、瀧口建設㈱)

卒業して17年になります。校友会報の表紙の写真(第58号)を見て、少林寺拳法部OBとして再活動している様子が思いうかび、うれしく思います。

(H.7.5.25受)

◇永田 進 (22回卒)

平成7年12月17日、静岡県富士郡芝川町の町長選挙で工学部土木学科21回卒の白井進氏が当選しました。

(H.8.1.7受)

## 機械工学科

◇赤坂嘉一 (5回卒)

平成7年3月31日をもって停年退職して、テニスとカメラと合唱団で毎日いそがしい状況です。

(H.7.11.22受)

◇菅木均 (11回卒、昭石エンジニアリング㈱)

桜の季節になり、三十数年前の若かった新入生時代を思い出しながら思っております。

(H.7.4.25受)

◇江波戸浩 (12回卒、㈱エバック)

東京いすゞ自動車㈱で28年間、特装車の開発を手がけた経験を生かし、平成4年5月に㈱エバックを設立。

(H.7.3.8受)

◇加藤栄治 (12回卒、㈱神明鉄工所)

今、郡山市役所の富久山町にあるゴミ焼却炉の集塵設備本体の製作をしております。'70年頃は鉄鋼設備や配合飼料プラントが多かったのですが、最近では環境設備が多くなっております。

(H.7.3.27受)

◇田村忠雄 (18回卒、㈱アトックス)

平成5年4月、転勤で福島に戻って来ました。当社にも数名の同窓生がおり、心強く思っています。

(H.7.5.25受)

◇岩吉力 (23回卒、丸紅設備㈱)

もう20年もたったのでしょうか。入学したのが昨日の様な気がします。福岡ー福島線も就航して、3時間あればいけるのですが母校を訪ねる会を欠席します。

(H.7.9.8受)

◇清水義也 (23回卒、イトーヨーカ堂)

遠方にてまた休みもとれぬ為に訪ねる会に出席できません。仕事はサービス業と学業の結果は生かされて

おりませんが、趣味の方は旧車集めとレストアにこっており車50台バイク20台ほどを休日はいじってます。

(H.7.9.11受)

◇寺島正明 (23回卒、㈱ザオーテック)

母校を訪ねる会に参加の予定で、日大郡山研修会館を予約していましたが、急用のため欠席いたします。

(H.7.10.3受)

◇根津進 (23回卒、根津設計事務所)

久しぶりの郡山、ぜひ行きたいところですが仕事の都合で、母校を訪ねる会どうしても出席できそうもない。

(H.7.9.20受)

◇古殿忍 (23回卒、南九州コココーラボトリング㈱)

元気でやっています。母校を訪ねる会のご盛会を祈念いたします。

(H.7.10.6受)

◇松林秀夫 (23回卒、船越エンジニア工業㈱)

先ずは、母校を訪ねる会のご案内を誠にありがとうございます。幸い仕事の都合もグットタイミングです。恩師・同窓生・下宿仲間・卒研仲間etc…今から楽しみにしております。北桜祭・学舎等々をカメラ・ビデオで撮るのも楽しみにしております。

(H.7.9.16受)

◇米丸政弘 (27回卒、レオン自動機㈱)

10年間のドイツ駐在生活を経て、家族共々帰国致しました。出張ベースでしばらくは、日欧間を往復する事になります。明後日より、また出張です。国際化の「化」は不要の昨今です。皆様、お体をご自愛しご活躍ください。

(H.7.5.9受)

◇佐々木和哉 (31回卒、㈱I・H・Iプランテック)

社内移動で、設計から工事計画の部署に移りました。現在、中部電力㈱川越火力発電所の増設工事でLNG受入配管建設工事の工事計画を担当しております。工場で組み立てた架橋、配管をユニット化し、450tonの大型クレーンで現地搭載して、現地での組立工期短縮、安全性の向上を目指しております。

(H.7.6.12受)

◇片寄朗 (34回卒、日本ケーブル㈱)

毎回、校友会報が届くのを楽しみにしております。放送部OB名簿の入手の際、校友会事務局は未だ扇風機時代ということを知りました。また、会費が大切に使われていることも改めて認識した次第です。工学部OBとして、期待に応えられるよう一生懸命精進しようと思っております。

(H.7.8.5受)

◇島倉弘幸 (36回卒、日本発条㈱)

今、桜の季節とあって、校友会への住所変更連絡を書きながら郡山での新入生の頃を思い出しております。

(H.7.5.10受)

## 電気工学科

### ◇角館常雄（6回卒）

本年3月20日を以て富士電機工務(株)を退職致しました。卒業後、37年間の勤務生活でした。退職を機に故郷岩手に転居しました。当面は健康に留意し趣味や地域社会への奉仕等積極的に活動すべく心掛ける所存です。

(H.7.4.26受)

### ◇鬼木昭汎（10回卒、西日本電気システム(株)）

第二の人生（職場）として、九州に帰って来ました。校友会の九州支部にコンタクトしたいと思っています。

(H.7.5.31受)

### ◇芳賀一郎（20回卒、(株)アインス）

西本勝之先生の退職を聞き淋しく思います。色々な意味で良き思い出があります。退職後も健康でいられますように。

(H.7.7.12受)

### ◇國多正晃（23回卒、S.M.K(株)）

現在、台湾勤務です。母校を訪ねる会は欠席です。

(H.7.9.6受)

### ◇増井勝孝（23回卒、(株)ザ・トーカイ）

母校を訪ねる会の企画は大変良いと思いますが、仕事の都合で出席できません。誠に残念。5年後か10年後に是非やってほしいです。

(H.7.9.30受)

### ◇百瀬隆裕（23回卒、(株)長野放送）

母校を訪ねる会、残念ながら出席できません。時折り、新幹線の車窓より母校の全景を眺めております。

(H.7.9.21受)

### ◇山内充（25回卒、(株)日立マイクロデバイス）

硬式テニス・電子材料、物理（物性）関係及び語学（英会話）を再チャレンジスタート致しております。

(H.7.4.19受)

## 工業化学科

### ◇新岡清（3回卒、双洋通商(株)）

久しぶりに母校を訪ね、皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。家内同伴で参りますので宜しくお願い致します。

(H.7.9.7受)

### ◇仲村将市（10回卒）

平成5年7月1日付通商産業省那覇鉱山保安監督事務所を最後に、公務員を退職致しました。現在は、(株)日本砕石協会沖縄県支部顧問を受けております。母校の限りないご発展を、お祈り申し上げます。

(H.7.1.13受)

### ◇桑原泰夫（12回卒）

いつも校友会報を、お送り頂きましてありがとうございます。楽しく読ませて戴いています。工業化学科菊池光子教授の訃報、誠に残念です。私は先生が講師に着任された次の年、昭和35年の入学ですので若かりし先生の姿を今でも思い出します。

(H.7.7.5受)

### ◇後藤信之（23回卒、ASAHIPEN.AMERICA.INC）

'95年6月より、5年の予定でアメリカのワシントン州ベルビュー市に住んでおります。母校を訪ねる会は申し訳ありませんが、欠席させていただきます。

(H.7.10.2受)

日本大学工学部校友会各位

平成8年3月1日

日本大学工学部校友会長 半沢 忠

### 平成8年度通常総会通知

日本大学工学部校友会平成8年度通常総会を下記のとおり開催いたします。皆様にはご多忙中とは存じますが、先輩後輩お誘いあわせの上、多数ご出席ください。

#### 記

1 日時 平成8年4月20日(土) 午後1時より総会、同3時より懇親会

2 場所 日本大学郡山研修会館 所在地：郡山市愛宕町2-22

TEL：0249-23-4193

3 報告・議題 (1)平成7年度会務および決算報告  
(2)平成8年度事業計画および予算の審議  
(3)役員改選  
(4)その他

4 懇親会 総会終了後引き続き同所にて大学関係者を迎えて懇親会を予定しています。

5 役員立候補受付

本年度は役員改選の年度に当たります。付則第1条4項により立候補を受付けます。

役員に立候補される方は平成8年3月31日まで、校友会事務局へ書面をもって届出てください。

以上

追記 研修会館宿泊希望の方は5日前までに工学部庶務課に申し込んでください。

TEL：0249-56-8600（大代表）

1995年1月17日午前5時47分まだ夜も明けやらぬ暗闇の約20秒間の想像を絶する激震から早や一年がたちました。被災現場と人々の心には、今だ消え去り得ぬ大きな傷痕を残したまま、1996年を迎えました。近頃は、倒壊家屋の解体工事もほぼ終わり、今まで通勤に通っていた道路ですら見違いう程、ビルや家屋が消え、まだ、更地のままの所も多く、残った建物も大半が補修中で、復興は水面下では動き始めているが、まだ、ほとんど姿が見えず今更乍ら、被害の大きさと復興の困難さを痛感します。当時の状況は、テレビ、新聞などで、全国に報道されましたが、災害現場に立った状況は、今にも倒れてきそうなビル、数々の倒壊した家屋、道路は各所で寸断され、安否を気遣う人達の往来、茫然と佇む被災者、所々で発生している火災、全国から集まった救援車の音と光の躁狂の中完全麻痺の様相を呈していた。数日間というもの街全体が終日静まることがなかった。私（明石市在住）も普段1時間の通勤間を当日は会社（神戸市東灘区本山南）まで行くことができず、翌日の18日午前6時に持てるだけの食料と水を携帯し出発しましたが、神戸市内では徒歩でないと動けない為、夜の9時にやっとの思いで、会社にたどり着いたものでした。もちろん、電気、水道、ガスが止まっている為、夜はいたるところで数人が集まり、倒壊した家屋の板切れで焚火をしながら、テントを張り夜を明かしていました。各学校の校庭は被災者で騒然としていましたが、校舎内は多数の教室が緊急遺体安置室となり、疲れ果て憔悴しきった人達が廊下にまで溢れ、冷えきった暗闇の中での沈黙と静寂は未だ頭から離れません。弊社は、今回の地震で倒壊した阪神高速道路の北西約1.5kmに位置し、高速回転で使用するグラインダー用砥石製造業務を行っている関係上、震災により大半の製品を廃棄する事となり、鉄骨以外の建物は総て倒壊、工場内は何トンもの機械が倒れたり、移動したり、全く足の踏み場もない状態でした。従業員の約半数が住居を失った被災者で、死者、負傷者、家族の不幸など、とても、その時の状況では復旧の目途は予測がつかなかった。2、3日は従業員の安否と連絡に追われ乍ら、そのうち、被災した自宅もそのままに、徒歩や自転車から自宅や非難所から出社し始め、二月初めには、部分的にでも稼働できるまでにいたった。しかし、長期にわたる流通機構の麻痺の為、納期面で、ユーザー各位の理解と協力を得ながら、全面稼働するまでの約1ヵ月間というもの、生産の遅れ、在庫品の損壊、輸送面での遅れ、情報網不備による不信など不測の出来事の処理に奔走する日々の連続でした。幸い工場も補強を入れながら使用できる様になり、機械類も点検整備のみで稼働できた事は予想外で、素早く復旧できたのは幸運であった。震災当時は当社の再興は無理との情報が喧伝され、信用を取り戻すのに半年近い時を要したが、却って、一致団結して復旧に取りくめたのも、それがバネになったのではないかと考えている。一年後の今、完全に復旧することができたのも、ユーザー及び業者の協力のお陰と感謝しております。今では、神戸市内を東西に走る国道2号線、43号線も以前より交通規制が緩和され、阪神高速神戸線は今年から架設工事が始まり、平成8年10月末の全線開通を目指し、復旧工事が進められています。道路、港湾施設復旧の遅れは、将来の神戸の経済復興に深刻な影を残すといわれ、復興計画による区画整理も官と民の間でギャップがあり、新しい街づくりは難行している様です。商店の再開率は60~70%といわれ、活況を呈しているところも一部あるが、一過性の現象と見られている。震災直後の応急措置から一段落した段階で「街づくり協議会」の推進者ですら、4、5年という時間の推移で考えても、決して楽観視はできないと見ている。ある建築家は「あの大地震の跡も、鳥の目で見ると、私たちの目にとどかない。虫の目の大切さを思わずにはいられない」と復旧の厳しさを述べている。関西で地震は起こらないと神話の様に信じていたこの阪神間で、活断層が集中していたということ、しかも50年に1度はM5以上の地震が発生する可能性があり、いつ地震があっても不思議でないと、最近になって、初めて公表するとは、常のことかも。この大震災で唯一のプラス面は、全国から救援に駆けつけたボランティアの目覚ましい活躍だった。延べ百三十二万人を超え、うち約半数が若者で、どこにも属さない「個人ボランティア」であり、今も数百人が活躍している。震災で初めて芽生えた市民意識を国もボランティア支援の法案づくりに動きだしたことは、大変喜ばしいことである。これからは大企業の移転、中小企業の廃業又は縮小による失業者の対策が特に急がれる。最後に、先生、同窓諸氏からのお見舞に、この紙上をお借りして、厚くお礼申し上げます。



復旧中の阪神高速神戸線

この特集記事は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で甚大な被害をうけられた町々のその後の様子を皆様に伝えていただきたく、勤務の関係などで、たまたま当地に居合わせた平上昭治、中平統士のお二人に無差別抽出で玉稿を載せました。

編集委員会

## あの日は一体何であったのか

川崎製鉄㈱ 橋梁・鋼構造事業部 播磨工場設計室  
中平 統士

1995年1月17日午前5時46分、M7.2、死者6300人余、倒壊家屋約11万棟、焼失面積約105万㎡、損害額11兆円。あの日、あの時、あの一瞬は一体何だったのでしょうか。天の悪戯にしては、余りにも犠牲が大き過ぎます。国際都市神戸の面影は一瞬にして消えてしまいました。一体誰が償ってくれるのでしょうか。私は午前5時30分に鳴り出した目覚まし時計の音を無意識に消し、いつものように台所の炊飯器からのご飯の匂いを感じながら布団の中でうとうとしていました。突然何に例えたら良いのか地鳴りなのかゴーと言う物凄い轟音とともに10数秒間「ドーン」と突き上げるような物凄い上下動と縦横揺れの水平動が同時に襲ってきました。家族の無事を確認し、ベランダに飛び出しました。冬の早朝で外は真っ暗闇でしたが、もう北の方で火の手が上がっていました。部屋の中は家具や食器棚が倒れ、食器類はほぼ全壊し破片がそこら中に散らばり、天井の照明器具、TV、置物、書類等が数mも飛び散り足の踏み場も無いぐらいに散乱していました。外では、大勢の人々が布団の中から着のみ着のままのバシヤマ姿で、裸足のまま寒風の外へ飛び出し、互いの無事を確認しあい右往左往していました。一瞬にして自宅が倒壊した人達は小学校、公民館、公園等に避難場所を求めて徘徊していました。兵庫県内1239カ所の避難所で32万の人が暮らしたと聞いています。空が白み始めて、家屋や電柱が倒壊し、そこかしこに崩れ落ちた家屋の瓦礫が散乱し、道路は亀裂や隆起陥没、電柱や架線が塞いでいました。防寒着を取りに家に帰ろうと振り返ると、今まで無かった所に異様に真っ黒な壁が目に入り込んで来ました。阪神高速3号神戸線の高架橋が私の住んでいる東灘区深江本町の西端から隣接の芦屋まで約700mに渡り橋脚の基部のコンクリートが剥離しアメ状に座屈した鉄筋をむき出しにして北側に橋桁もろとも破壊してありました。高架橋の下敷きになり警笛が鳴り放しになっている大型トレーラー、路面を滑り落ち10台位が折り重なり原型を留めない大型車両等の余りの惨状を目の前にし、只只愕然とするばかりでした。近くの火災はすぐ近くの消防詰所に消防車が待機しておりながら消防車が走れる状況になく、延焼が最小限ですむように折りながら見守るだけでした。ライフラインが寸断され情報が途絶えていたため地獄のような惨状を知ったのは何日かたった後のことでした。長田地区の大火災の惨状、救援活動の初動遅れにより助かる命を助けられなかった事等無念でなりません。避難所では、遺体が余りにも多く柩が間に合わず、その上停電やガスがストップしたため斎場が使えず毛布にくるまれたまま3週間近くも安置されていました。その間も、昼夜を問わず、ゴーと言う異様な轟音とともにやって来る余震の恐怖は被災者に容赦はありませんでした。我が家の4階建てのマンションは最激震地の真っ直中でありながら奇跡的にも建物自体にほとんど被害が無く、幸運であったと思います。六甲の山並の南側で海岸線に沿って1km~2kmのベルト状に東は宝塚市、西宮市から西へ約50kmにわたり神戸市を縦断する地域に激しい被害が発生しました。活断層や六甲の山裾の地盤特性、また震源が20kmと浅く、大都市の直下型地震の恐ろしさを見せつけられました。「落ちないはず」の高速道路の落下、「地下は安全と言う神話」も崩れ地下鉄のトンネルの崩壊、液状化による「側方流動」と呼ばれる現象が起き神戸港の海岸線は壊滅的な被害を受けました。50mmの極厚鉄骨柱が強烈な引張力を受けて引きちぎれる等、足元ぐらり、1階部分の完全圧壊、中層階の崩壊等高層建築にも大きな被害が続出しました。このような光景は二度と見たくありません。あの日から一年が過ぎました。ライフライン、JR私鉄等の鉄道の復旧は急ピッチで進み、阪神高速3号神戸線も2月中に一部、秋には全線開通すると発表されました。TV等はほんの一部の表面的な復旧復興の状況を報道されていますが、一向に立たない都市再開発計画、職を失いその日の暮らしに困っている人達の生活の再建計画は積み残されたままです。今尚あちこちに瓦礫や焼け焦げた鉄筋が山積みされ、いたる所に広々とした平地が出来、新しい水と花が供えられています。秋には誰が蒔いたか色とりどりの秋桜が一面に咲き誇り一層の侘しさを募らせました。多額のローンを抱え全財産を無くした人達、今尚行場がなく千人近いテント住まいの人達、約9万人の人達が仮設住宅での不自由で先の当てのない不安な暮らしを余儀無くされております。肉親、友人や知人を無くし、また570人の被災孤児達の心に大きな傷跡を残したままです。どのようにケアすれば良いのでしょうか。この人達には復興への兆しはまだまだ遠い先のことだと思います。一瞬のこと故、多くの人には悲嘆に落ち込む余裕などありませんでした。改めてTVの特集を見ると余りにもむごく思わず涙が出ます。この惨状の中で、耐えに耐え復興へ立上がろうと勇気付けて下さったのは10万人にも及ぶ世界各国、国内のボランティアの方の善意であったと心から感謝致します。何年先になるかわからない復興へ向かって市民は「がんばろう神戸」を合言葉に精一杯頑張っています。今回の震災は大都市圏の防災体制、復興への行政の在り方等幾つもの課題を投げかけました。これらの課題を解決し、災害に強く住みやすい町作りをすることが、多くの犠牲者への供養だと思います。犠牲者の方々のご冥福と元の神戸の光が早く返ってくることを心から祈っております。私は偶然にも弊社であの転倒した場所の3号神戸線の復旧工事を受注しましたので、H8年秋の開通を目指し頑張っております。多くの先輩、友人、知人からご心配、励ましの言葉を頂いた事を心より感謝致します。

(機械工業科12回卒)

平成7年1月17日未明、近畿地方を襲った大地震はとくに阪神と淡路地域に甚大な被害をあたえた。

省りみると、この震災の衝撃は、今までに奉信してきた各分野での技術的安全保障が、事実上は無効であったということです。

私も関係者の一員として、災害調査に参加し貴重な



屋根の形状をわずかに残して、全面倒壊した覚浄寺付近の状況から強烈な震動が押し寄せたと思われる。



鉄筋コンクリート造4階建の家屋の1階部分での破壊状況（東灘区）



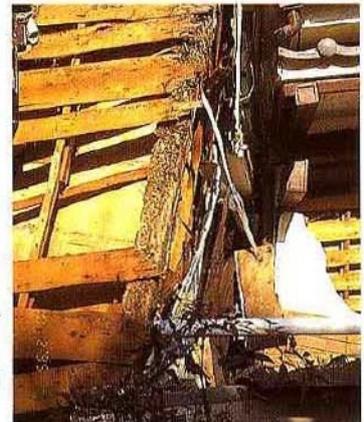
フェリーボート用栈橋が、液状化現象による陥没のため傾斜し使用不能となった。

記録写真を撮影して参りました。その時の記録を若干業ご紹介申し上げ、共に一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

なお、これらの記録写真は長く保存する予定ですので、ご使用をご希望される方は、工学部建築学科橋本寛あてにご連絡下さい。



写真のようなブロック塀の倒壊が数多くみられた。以前から指摘されたとおり大きな凶器だ。



破壊崩落した外壁、屋根瓦の落下と共に数多く発生した所見。



浄水場の法面に地すべりが発生、37人の方々が生き埋となり、尊い命が失われた。

## 〔 訃 報 〕



### 廣川友雄先生を悼んで

工学部次長 蓬田和夫

廣川先生は、平成8年1月7日朝心不全のためご逝去されました。享年81歳でした。先生は、昭和22年日本大学専門部工科に奉職以来、40年余にわたり、工学部及び大学院工学研究科の教育・研究指導に当たってられました。研究面では、白錫双晶に関する研究で理学博士の学位を授与されたのを始め、国内外で多数の著者・学術論文を発表されております。

先生は在職中、工学部長3期、また、日本大学評議員、理事、総長代理代行等の要職を歴任され、昭和59年には、郡山市文化功労賞と日本大学名誉教授の称号を授与され、昭和62年には勲三等瑞宝賞を受賞されました。日本大学に対する先生の長年にわたるご功績とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。



### 三澤好夫先生を悼む

建築学科主任 大濱嘉彦

平成7年6月29日に、65歳の誕生日を間近にして、三澤好夫先生が逝去されました。三澤先生は、昭和35年にご着任以来、35年の永きにわたり、本学部の大先輩という自負を持って、しかも、愛情を注いで、学生の教育に打込んでこられ、本学部の発展に多大の貢献をされました。卒業研究や弓道部で、先生に身近に接した学生たちからは、大変慕われておられました。今日のように、教育の荒廃が問題視されている時、学生に温かい愛情を持った教育を実践された先生は、真の教育者であったと思います。このような先生を失ったことに心から哀悼の意を表します。先生のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



### 横井 博先生を悼んで

一般教育教授 永塚 功

去る平成7年8月28日、長い間教鞭をとられてきた横井博先生が逝去された。享年70歳。先生は昭和29年4月に当時の第二工学部に赴任、平成7年2月定年で退職されるまで、四十有余年を教育・学問研究に精励された。とくに大学教育における人間教育の重要性を説き、多くの役職についてその運営にあたった。一般教育主任・学監・付属高校長・図書館長などがそれである。この間、大学改革に取組み、大学の目標・理念の骨格をまとめ、高校長としては進学コースの新しい教育課程をつくった。研究面では文芸学分野で活躍、『印象主義の文芸』『詩歌における印象主義』の名著を残している。その他、みちのくに関係をもつ「奥の細道」の研

究や宮沢賢治の研究にも情熱をもやされました。近年では地元の安積開拓にも関心をもって、共同研究で『安積開拓の研究』を刊行した。

また、学外にあっては郡山市社会教育委員・郡山市史編纂委員・郡山市図書館協議会委員・郡山市公民館運営委員など歴任、これらの業績が高く評価され、平成6年11月郡山市から文化功労賞を授与された。

ここに先生の長年にわたる教育・研究・社会活動の業績に敬意を示すとともに、先生の御霊に慎んで哀悼の意を表する次第です。



### 湯浅先生を悼んで

機械工学科主任 依田満夫

機械工学科教授、湯浅達治先生が、平成7年7月21日、享年66才で、ご逝去されました。ここに慎んでお知らせ致します。

先生は、東北大学を卒業後、荏原製作所に入社し、総合研究所主管研究員として、主に騒音、流体関連の研究で顕著な業績を挙げられました。

昭和60年、本学部教授として赴任され、企業での経験を生かしたアイディア発想法による授業で、実践的な教育に尽力され、設計関連の多くの著書も遺されました。

日本設計工学会東北支部長、郡山市テクノポリス技術振興委員、ご趣味としての宝生流能楽の普及など、多方面でのご活躍にその力を発揮、才能を惜しまれました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

◇元工業化学科教授 岩田芳夫先生は、平成7年11月6日午前11時25分にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。

喪主 岩田駿一殿

◇元機械工学科教授 石井勇五郎先生は、平成8年1月11日午後9時にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。

喪主 石井正幸殿

◇元電気工学科教授 本間 磐先生は、平成8年1月14日午前9時26分にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。

喪主 本間 昇殿

◇日本大学工学部事務職員 宮田 恒殿は、平成7年7月26日午後3時24分にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。

喪主 宮田浩充殿

## ◇大学院工学研究科だより

平成6年度大学院設備拡充費

「材料の複合化プロセッシングと複合体の強度評価システムに関する研究」 小野沢元久教授。

材料の複合化プロセッシングと複合体強度評価システム一式で、経費は34,400,000円。

「気相および凝縮系におけるレーザー誘起化学反応の解析」 鈴鹿 敢教授。

パラメトリック発振波長可変レーザーシステム一式で経費は34,781,000円。

## ◇校友の母校での教員

平成7年4月1日付で昇格されました。

教授 尾股 定夫 (電20回卒)

助教授 古河 幸雄 (土23回卒)

藤原 雅美 (機23回卒)

専任講師 田村 賢一 (機30回卒)

## ◇退職された先生

横井 博 (一) 昭和29年～平成7年2月8日  
定年退職

水野知昭 (一) 平成7年3月31日依願退職

## ◇卒業後の各種証明書について…工学部教務課

手数料 成績証明書 200円

卒業証明書 200円

その他は問い合わせください。

健康診断書は発行しません。

申込方法 直接窓口にくるか、郵便で申込む。

電話では受け付けません。

必要事項 手数料・返信用郵送料 (いずれも切手可) 学科・氏名・本籍・生年月日・  
入学年月日・卒業年月日・現住所

## 【事務局便り】

### 第16回母校を訪ねる会

日時 平成8年10月20日(日) (予定)

対象 第4回卒業生 (昭和31年3月卒業)

第24回卒業生 (昭和51年3月卒業)

回を重ねるごとに盛況となって参りました。このころは前日に郡山市内で同級会などの開催が恒例化して参りました。大いに参考にしてください。

また、上記年度の卒業生を主たる対象とはしてはいますが、これ以外の年度の卒業生の方々のご参加もお待ちしておりますので、是非来訪くださいまして、時代と共に変貌発展する母校を見てください。

## 日本大学工学部在籍者数

(学部) (平成8年1月1日現在)

学年	入学年度	土木工	建築	機械工	電気工	工業化	情報工	計
1	7	(15)238	(36)241	(3)206	(6)218	(18)161	(22)210	(100)1274
2	6	(3)215	(26)207	(2)225	(5)217	(14)162	(10)145	(60)1171
3	5	(9)208	(24)193	167	(6)184	(20)188	(16)173	(75)1113
4	4	(5)216	(36)260	274	(4)265	(17)160	0	(62)1175
5	3	39	32	26	33	(1)18	0	(1)148
6	2	7	12	6	10	3	0	38
7	元	3	7	0	0	0	0	10
8	63	3	1	0	2	1	0	7
4年以上計		(5)268	(36)312	306	(4)310	(18)182	0	(63)1378
計		(32)929	(122)953	(5)904	(21)929	(70)693	(48)528	(298)4936

(大学院)

学年	入学年度	土木工	建築	機械工	電気工	工業化	計
1	7	16	(2)16	21	16	(1)14	(3)83
2	6	4	15	22	20	13	74
3	5	0	1	0	0	0	1
計		20	(2)32	43	36	(1)27	(3)158
1	7	1	3	0	0	0	4
2	6	0	1	1	0	0	2
3	5	1	0	0	2	1	4
計		2	4	1	2	1	10

( ) は女子内数を示す

研究生 工学部研究生 15名

工学研究所研究生 4名

教職聴講生 4名

科目等履修生 3名

最近ではキャンパス内に女子学生の姿を見ることが多い。この表によれば女子学生の員数が増えているようです。工学部は、かつては男子の学部と思われていたが、ソフトな感性が要求される社会の近況に従って、また男女学生の比率も変わってきているようです。

さらに最近では、国際的な交流が盛んになって、留学生のエキゾチックな姿も、しばしば見うけられます。

## 校友会報 第59号

発行所 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-11  
電話番号 (0249)-44-1327  
FAX番号 (0249)-44-1327  
振替講座番号 郡山5-1990

発行部数 40,000部  
発行日 平成8年3月1日  
発行代表者 会長 半沢 忠  
編集代表者 事務局長 橋本 寛